

いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手
第191号
令和5年度第2号



三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にし、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

岩手県東日本大震災津波追悼式

盛岡市
MORIOKA

岩手県は、東日本大震災津波から13年となる令和6年3月11日(月)、盛岡市のトーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)で、岩手県東日本大震災津波追悼式を執り行いました。県の追悼式は、震災の翌年から毎年、沿岸被災市町村と合同で開催してきましたが、今年は、盛岡広域首長懇談会と共催し、初めて内陸で開催しました。

当日は、土屋復興大臣や県選出国會議員を始めとした御来賓のほか、県民など約300人が参列し、地震発生時刻の14時46分に合わせて黙とうを捧げました。

式辞で、達増知事は「国内外で大きな自然災害が起きている中、私たちは、自然災害に強い社会の実現に向けて、震災の事実と教訓を今後も伝承していきます」と述べました。

また、今年初めて実施した「未来へのメッセージ」では、震災当時4歳だった県立高田高校2年生の渡邊翔真さんが、高校でのフィールドワーク等を通し、「この町で、人々とつながりながら生きることが、地域の復興、そして未来につながっていくということを町の方々から教わりました」と述べ、今後、自分達の世代が担い手になり、同じ沿岸地域の若者たちとつながり、新たな取組に挑戦する決意を表明しました。

この後、参列者は献花台に花を手向け、犠牲になられた方々を悼み、大切な人に想いを寄せました。

また、同日午前には、達増知事と工藤県議会議長が、陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園などで献花をし、被災地で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りしました。



式辞を述べる達増知事



未来へのメッセージを発表する
渡邊翔真さん



参列者による献花



献花をする土屋復興大臣



黙とうを捧げる参列者

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課

☎019-629-6945

開催

岩手と海外の高校生が 震災伝承について意見交換

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

令和5年11月19日(日)、岩手県は、陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園国営追悼施設・祈念施設管理棟セミナールームで、県立釜石高校の生徒有志グループ「夢団」とインドネシア共和国のバンダ・アチェ第一高校の生徒が、お互いの伝承活動を紹介し、今後の活動について共に考える交流会を開催しました。

この交流会は、東北大学災害科学国際研究所や海外津波博物館等の協力の下、東日本大震災津波の事実と教訓を伝承・発信し、国内外の防災力向上に貢献するとともに、次代を担う伝承の担い手の育成につなげるため、昨年度から開催しているものです。

当日は、伝承活動に参加しようと思った理由や若い世代が防災教育に興味を持つための方策などについて意見交換を行い、参加した高校生は、「震災を経験した世代が直接語り継いでいくことの重要性を学んだ」と話していました。

交流会の様子は、県公式動画サイトに掲載していますので、是非ご覧ください。



岩手とアチェの高校生が意見交換する様子



■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945

放送

神奈川県・関東地方等で 復興テレビ番組を放送

神奈川県
関東地方
KANAGAWA
KANTO REGION

令和6年1月27日(土)、テレビ神奈川で、復興テレビ番組「猫のひたいほどワイドSP～猫旅in岩手～」が放送されました。

この番組は、東日本大震災津波から間もなく13年を迎えるに当たり、「ぼうさいこくたい2023」の開催地・神奈川県を中心とする関東地方等の方々に、震災の経験から得られた教訓を伝承するとともに、復興の取組や各種支援活動等に対する感謝を発信し、復興への継続的な参画を促進することを目的に岩手県が企画しました。



猫のひたいほどワイドSP～猫旅in岩手～
(写真提供:テレビ神奈川)

番組では、テレビ神奈川の情報番組「猫のひたいほどワイド」のレギュラー出演者が、北チームと南チームに分かれて県内沿岸部を訪問し、三陸鉄道の震災学習列車や津波遺構たろう観光ホテルの「学ぶ防災ガイド」、東日本大震災津波伝承館などで震災の事実と教訓を学んだほか、三陸の海の幸等の魅力を紹介しました。

番組を契機に、神奈川県・関東地方との絆が更に深まるとともに、防災意識の向上につながることを期待されます。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945

世界へ、未来へ いわてTSUNAMIメモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわてTSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

令和5年11月27日(月)、東日本大震災津波伝承館の来館者数が90万人に達しました。

令和元年9月22日の開館からおよそ4年2か月での達成となりました。この間、新型コロナウイルス感染拡大により来館者が減少したり、臨時休館を余儀なくされたりした時期もありましたが、5類感染症に移行した令和5年5月以降は、国内外から世代を超えて多くの方々にご来館いただいています。

令和5年度は、ゴールデンウィーク期間の5月4日に1日の来館者数が過去最高の3,513人を記録したほか、8月の月間来館者数が過去最高の36,157人を記録しており、8か月余りが経過した12月2日には早くも令和4年度の年間来館者数(207,009人)を超えました。

1月に入り、能登半島地震の発生を受け、来館者からは南海トラフ地震や日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震など将来発生することが予想される大規模災害への備えに対する関心の高まりを感じています。

東日本大震災津波発災から13年が経過しましたが、東日本大震災津波伝承館では、記憶の風化を防ぎ、国内外の防災力の向上に貢献するため、これからも震災学習・防災学習の拠点として震災津波の事実と教訓を伝承し、復興の歩みと多くの支援への感謝を発信していきます。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館
☎0192-47-4455



「たかたのゆめちゃん」来館の様子



メッセージボード
(東北楽天ゴールデンイーグルス 銀次さん)

開催

令和5年度第2回いわて復興未来塾開催

盛岡市
MORIOKA

令和5年12月17日(日)、「震災12年・盛岡から考える復興と次世代への伝承」をテーマに、令和5年度「第2回いわて復興未来塾」(併催：いわて三陸復興フォーラム(内陸報告会))が盛岡市で開催され、66名が参加しました。

講演では、始めに盛岡市副市長・中村一郎さんが、盛岡市の切れ目のない復興支援として、被災地から転入する大学生等に無償で共同住宅(シェアハウス)を提供する「しえあハート村」の設置や、シェアハウスの入居学生等が主体的に参画して地域食堂を開催し、地域住民との交流や新たなコミュニティを形成する取組などを紹介しました。また、都道府県の枠組みを越えた広域的な被災者の受入体制整備の必要性や、復旧・復興の最前線で従事する市町村職員へのメンタル面も含めた支援等の重要性について述べました。



中村副市長の講演の様子

次に、岩手県立図書館長・森本晋也さんは、令和5年11月に震災学習拠点スペース「I-ルーム」を県立図書館に開設し、児童生徒等の探究的な学びの支援や県内の震災伝承施設等のサテライト的機能の発揮による沿岸部への誘客促進について紹介



森本館長の発表の様子

しました。また、震災前に釜石市立釜石東中学校で取り組んだ防災教育を振り返りながら、中学生が地震・津波に主体的に興味関心を持ち、家族や地域の人とも関わりながら活動していたことが、東日本大震災津波での率先避難につながったことを述べました。

事例報告では、認定NPO法人おはなしころりんの理事長・江刺由紀子さんが、被災地で続けてきた絵本の読み聞かせ活動が、子どもの生きる力を育むだけでなく、高齢者の活躍の場や生きがいづくり、地域コミュニティの再生・維持につながった事例を紹介し、多くの方が連携しながら学校・地域全体で子どもの成長を後押しする地域づくりの必要性について述べました。



江刺さんの発表の様子

知事からは、「復興に主体的に取り組む中で、当初考えていなかったような展開がどんどん生まれている。自分の中から湧き出る主体性に従って、復興の更なる先へ進んでいただきたい」とコメントがありました。

いわて復興未来塾の様子は、県公式動画サイトに掲載していますので、是非ご覧ください。



講演及び事例報告後の記念写真の様子

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945



開催

東日本大震災風化防止イベントを開催

東京都
TOKYO

令和6年3月7日(木)から3月11日(月)まで、東北4県(青森県、岩手県、宮城県、福島県)と東京都で構成する実行委員会は、東日本大震災津波の復興情報発信と風化防止を図るため、東京都港区の汐留シオサイト地下通路で「東日本大震災風化防止イベント～復興・その先へ2024～」を開催し、多くの方が来場しました。

イベントでは、岩手県知事及び東京都知事のメッセージボードを掲示したほか、タレント「のん」さんのメッセージ動画や復興に取り組む人々を紹介するオリジナルムービーを放映するとともに、東北4県の復興状況や震災伝承施設、東京都の被災地支援の取組をパネルで展示しました。また、被災地を巡るVR(仮想現実)体験や東北4県の特産品、地酒の販売など多彩な催しを実施し、東北4県の魅力を首都圏へ発信しました。

会場内に設置したメッセージボードには、東日本大震災被災地を応援するたくさんのメッセージが寄せられていました。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945

風化防止イベントの概要はこちら➡



来場者から多くのメッセージが寄せられた東日本大震災被災地応援メッセージボードの様子



県立陸前高田 オートキャンプ場

地域とキャンパーを
つなぐ体験型観光の
新たな拠点



東日本大震災津波以降、キャンプ場としての利用を休止してきた県立陸前高田オートキャンプ場が、令和5年9月、「スノーピーク陸前高田キャンプフィールド」としてリニューアルオープンしました。

新しいキャンプ場は、テントの大型化やグランピング、犬の同伴を可能とするなど多様なニーズに対応しており、区画のないフリーサイトや大人数で楽しむことができるグループサイト、愛犬と利用できるドッグランサイトなど計145のテントサイトがあります。

また、24時間利用可能なシャワールーム、洗濯機を完備し、必要な道具を全てレンタルできるプランも用意されています。地元事業者と連携し、不定期で地元の海産物や特産品等を販売するマルシェも開かれるなど、地域経済への波及効果も見込まれます。

漁業体験や震災学習、地域の食文化など沿岸地域特有の観光資源と組み合わせ、年間を通じて楽しむことができるキャンプ場として国内外から注目を集めており、沿岸地域への誘客拡大とにぎわい創出が期待されています。

場所 岩手県陸前高田市小友町瀬沢155-78
問い合わせ スノーピーク陸前高田キャンプフィールド
 ☎0192-22-9477



県立陸前高田オートキャンプ場



陸前高田市★

いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介しします。第137回は藤織 ジュンさんをご紹介します。



合同会社プロダクション未知カンパニー

代表
ふじおり
藤織 ジュンさん

北三陸を
もっとモシロク!!
藤織ジュン

～ 北三陸をもっとモシロク!! ～

PROFILE 東京都出身。平成27年に北限の海女PR隊へ参加。同年12月には久慈市地域おこし協力隊に加わり、観光PRの仕事に携わった。任期終了後も活動を続けたいと考え、平成30年に合同会社プロダクション未知カンパニーを設立。現在は県内外を問わず、幅広いジャンルで観光PRに関する活動を続けている。

観光PRの仕事に魅せられて

学生の頃から舞台俳優やナレーターなど、表現の世界で活躍してきた藤織さん。初めて久慈市を訪れたのは平成27年で、当時所属していた劇団の地方公演がきっかけでした。そのとき見かけたのが、「北限の海女PR隊」募集のチラシです。「最初は応募を考えていませんでしたが、だんだん『いいかもしれない』と思い始めたんです」と語ります。

PR隊の活動期間は平成27年7～9月で、藤織さんは「3ヶ月なら…」と応募。実際の仕事に魅力を感じた彼女は、やがて久慈市の地域おこし協力隊に参加します。あっという間に月日は流れ任期満了の3年目に突入する頃には、東京へ帰ることの方が現実的ではなくなっていました。

気軽に移住相談できる場を

そして平成30年6月、藤織さんはプロダクション未知カンパニーを設立します。令和4年には久慈市移住コーディネーターにも就任。現在は移住に関する仕事や地域おこし協力隊のサポートのほか、県内外の水族館などで海女として活躍しています。「三陸鉄道でガイドをすることもありますが、車窓からの景色がだいぶ変わってきて復興が進んでいるのを感じます」

そう語る彼女は今の暮らしを満喫しているようで、「ここに来てからイカを捌けるようになりました」と、嬉しそうに教えてくれました。今後の目標は、移住相談の窓口を街なかで作ること。「気軽に立ち寄れて相談できる場所を作りたいです」と、語ってくれました。

岩手県の被害状況

令和6年2月29日現在

- 人的被害 死者：5,146人（余震、震災関連死を含む）
行方不明者：1,107人
- 建物被害（住家のみ、全半壊）26,079棟
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和6年2月29日現在

- 義援金受付状況 約188億5,832万円(99,429件)
 - 寄附金受付状況 約207億4,223万円(22,174件)
 - いわての学び希望基金(※)受付状況 約107億1,569万円(28,172件)
- ※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ

検索



いわて復興だより 第191号

令和6年3月25日発行 企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・校正／永代印刷株式会社